



ASME Engineering & Technology Management (E&TM) Groupの活動を振り返って

本田 博

Hiroshi HONDA

〔日本機械学会前高橋員〕

首都大学東京/東京理科大学技術大学(客員研究教授
(2000/2003年度))

非常勤講師(2001年度~)

筆者は、1977年にアメリカ機械学会(ASME)の会員となり、1999年以降、日本に住みながら、技術と社会部門、マネジメント部門、安全工学・リスク解析部門から成るE&TM Groupの活動に携わってきた。2003年11月1日、技術と社会部門長に選任され、筆者が創設したエネルギー経済委員会、新技術と社会委員会、国際委員会に加え、持続可能工学委員会、工学公共政策委員会、知的所有権委員会、技術と倫理委員会などの活動を統括している。これらを振り返って所感を述べてみたい。

ASMEの37の技術部門は、3ないし6の部門からなる合計8のグループに分けられ、グループに所属する部門間での情報交換や討論が活発に行われるので、共催イベントなどが頻りに行われている。例えば、IMECE 1999(ナッシュビル(11月))のE&TM Group Operating Boardの会合で、筆者がグループ主催のシンポジウムを提案したところ“Successfully Managing the Risk and Development of Your Business and Technology”(Managing, Risk, Technologyはそれぞれ部門名を象徴している)と称するシンポジウムをIMECE 2000で開催することができ、日本工学会大橋秀雄会長とWinfred Phillips ASME/ABET/ASEE元会長を講演者とする学術資格の相互認定に関するセッションなどを行わせていただくことができた。さらに、IMECE 2003では、元駐日英国大使館科学技術参事官Richard Hinder氏にマネジメント部門・技術と社会部門共催ディナーなどでご講演いただき、IMECE 2000-2004では、会長や元会長のご支援をいただき、アメリカの他学会の会長やASMEの歴代会長をパネリストとしたセッション、NSF, NIH, NASA等政府関係者を招聘したセッション、National Manufacturing Week 2005では、エネルギー省DOEや環境保護庁EPAの方々のセッションも開催させていただいた。

筆者がGroupを代表して出席した副会長以上の役員選出会合は、毎年6月のSummer Annual Meetingで、朝8時から、時には深夜まで四日に渡り行われる。立候補者の支持者達と立候補者本人の演説のあと審議が始まり、最初の投票が行われるが、最終的に一人の候補者に3分の二以上の票が得られるまで繰り返し投票が行われるので、待ち時間

には、選出委員たちのジョーク合戦で退屈をしのぐことになる。夜に時間ができたときは、ディナーや酒場などが、互いに疲れを癒し、連帯意識を醸成する格好の場となる。

部門長レベルの人事は、基本的に部門内もしくはグループ内で行われるが、グループ外の部門から、新任の部門長が来る場合もあるし、部門のExecutive Committeeのメンバーも、公募することがあるので、オープンであると言える。

ASMEの部門活動で感じることは、明確な自己主張の必要性和、時に生じる強烈な自己主張のぶつかり合いへの対応の重要性であるが、利害関係が本当に対立する場合には、対等以上に主張できなければ、相手に押し切られることを意味し、阿吽(あうん)の呼吸が必要となる場合もあるが、受け入れられると、自由放任とっていいほど任せられてしまう。また、部門長としての役割で重要なことは、発散しがちな個人々の活動を、いかにまとめて、部門として密度の高い活動や催しに変え、盛り上げていくかであるが、それにはアメリカ式のチームワークで、ちょっとした工夫や、人情を繊細に把握し、まとめていくことが必要であったように思う。日本と比べると、若い人々の主張が通りやすく、放っておくと、さまざまな面で無理が生じる場合も見受けられたが、各個人の発言や行動に対する評価も、その都度行われているようなので、チェック・アンド・バランスの機能も十分に働く仕組みとなっている。

ASMEの強みの一つは、世界各国に支部を持っていることであり、現在、“Continuity and Change”と称するリストラが完了したばかりであるが、今後、より広く、世界に受け入れられる組織となるよう、国内外の会員の声をもとに最大限の注意と努力が払われている。

E-mail: Hondah9876@aol.com, h.honda@s3.dion.ne.jp

(原稿受付 2005年5月18日)

参考文献

本田 博, 「アメリカの学術と教育の文化について思う」, 学士会報 (2005-V No.854).



写真1 アメリカ機械学会(ASME)東テネシー地区・オークリッジ地区共催会合(2003年10月4日(土)夕刻)

テネシー州ノックスビル市Barley'sにて筆者が講演した後(テネシー大学機械系工学及び心理学専攻の学生らとともに(前列中央が筆者、向かって右端がRobert Kennedy氏(技術と社会部門Secretary))



写真2 国際機械工学コンGRESS(IMECE)2003技術と社会部門・マネジメント部門共催夕食会(2003年11月18日(火)Washington, D.C.)

(左から)Tommy Gardner氏(技術と社会部門Treasurer, 海軍大佐), 筆者(技術と社会部門長), Richard Hinder氏(ロンドン在住IEE Fellow), Bob Simmons氏(E&TM Group担当副会長)